

2013

JUL. 7 vol. 34

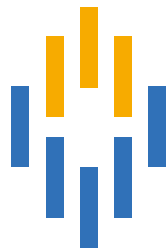
東京成徳広報



東京成徳大学深谷中学・高等学校体育祭



学校法人 東京成徳学園



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク
イエローは「活力」と「勇気」を表し、
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、
同窓生を象徴しています。
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五
本の柱は五つの教育目標を象徴していま
す。
そして、八本の柱が一体となり、東京成
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ
ニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 東京成徳大学深谷中学・高等学校体育祭

6月5日深谷市仙元陸上競技場にて開催。

中学校と合同の初めての体育祭。

「勇気凛々～今が見せ場だ 我らの力は無限大～」のスローガ
ンのもと中学生のクラスが息を合わせ、大縄跳びに挑戦。

C O N T E N T S

- P 4 **巻頭言「理事長に就任して」**
理事長 木内 秀樹
-
- P 6 **就任挨拶「グローバル化社会と建学の精神」**
学園長 木内 秀俊
-
- P 7 **就任挨拶「学長に就任しました」**
大学学長 海保 博之
-
- P 8 **深谷中学校開校**
-
- P 9 **十条台キャンパス再整備計画**
-
- P 10 **東京成徳大学開学 20 周年記念行事
東京成徳大学深谷高等学校創立 50 周年記念事業**
-
- P 11 **学園の動き**
役員・評議員の改選 学園人事
平成 25 年度事業計画 平成 24 年度事業の概要 平成 24 年度決算報告
-
- P 15 **ひと『活躍する卒業生』**
緑が丘クリニック カウンセラー
臨床心理士 荒井 信行さん（大学院心理学研究科臨床心理学専攻修了）
-
- P 16 **東京成徳学園の歩み② - 終戦の復興から短期大学開学まで -**
-
- P 18 **国際交流**
中高一貫部 ニュージーランド学期留学
-
- P 19 **社会交流**
大学 八千代市教育委員会との包括協定書締結
-
- P 20 **進路状況**
-
- P 22 **新任挨拶**
東京成徳短期大学学長 木内 秀樹
東京成徳短期大学附属第二幼稚園園長 星野 薫
-
- P 23 **TOPICS**
大学院 大学十条台キャンパス 大学八千代キャンパス 短期大学
中高一貫部 高等部 深谷中学校 深谷高校 幼稚園 第二幼稚園
-
- P 28 **入試カレンダー・お問い合わせ先**
-



「理事長に就任して」

東京成徳学園理事長 木内 秀樹

はじめに

本年5月末の理事会において木内秀俊前理事長の後任として理事長に就任いたしました。

3代目の木内四郎兵衛理事長は、戦後日本の私学を牽引した教育者の一人であり、女学校として出発した学園を大学院から幼稚園までを擁する総合学園に発展させ、大きな業績を残しました。

4代目である前理事長は、体調不良から在任期間は8年間と短いものでしたが、人文学部の改組・応用心理学部設置、短期大学のビジネス組転換するなど高等教育部門の整理・発展に力を尽くされました。また、学園の教育力向上と財務体質強化のために中期事業計画策定を推進し、部門合同会議を創設されたことは、現在の学園の発展に大きな力となりました。

本学園の創立者である菅澤重雄先生は、私の母方の曾祖父にあたります。生前の故人の様子を知る最後

の世代の人間として、創立以来脈々と受け継がれてきた「建学の精神」を大切にしつつ、現代の社会に求められる教育を展開していくことは、自分の使命と考えております。教職員の方々の協力を得て学園の発展に全力で取り組む所存です。

国の教育改革(教育再生会議の提言)

昨年の政権交代以降、政治・経済とも矢継ぎ早にアベノミクスの矢が放たれ、激しい動きの中で将来の方向が模索されています。

特に教育の分野では、内閣府所管の「教育再生実行会議」による提案が、新しい動きとして文部科学行政にも影響を与えており、教育関係者にとつては無視できないものとなっております。

本年5月には、教育再生実行会議から「これからの高等教育の在り方について」次のような第3次提言がなされました。

『教育を集大成し社会につなぐ大学の役割は決定的に重要です。知

識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となる知識基盤社会にあつては、大学が担うべき役割が一層大きくなっており、その教育・研究機能を質・量ともに充実していく必要があります。各国が高等教育を重視し、規模を拡大する一方、日本の大学進学率(OECD加盟国比較、日本58.8%、アメリカ74%、韓国71%)は先進国の中でも極めて低く、社会人の学び直しの機会も限られています。また、大学のグローバル化の遅れは危機的な状況にあります。』

そして、今後取り組むべき重点項目として、提言の中で次の点が指摘されています。

- ① グローバル化に対応した教育環境作りを進める。初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育を充実する。
- ② 社会を牽引するイノベーション創出のため教育・研究環境作りを進める。
- ③ 学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する。大学は、課題発見・探求能力・実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法(アクティブラーニング)、

双方向の授業展開など教育方法の質的転換を図る。

- ④ 大学等における社会人の学び直し機能を強化する。知識基盤社会にあつては、社会人になってからも学習の意欲を持ち続けることが重要。
 - ⑤ 大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する。
- これらの項目については本学でも検討し、実施の方向で進めたいと考えています。

本学園の現状

我が国の教育について考えると、世界のグローバル化に対応できておらず、特に高等教育分野においては、教育システムの転換とともに、根本的な教育・研究の質的なレベルアップが求められています。そして、その影響を受けて比較的成果をあげていると思われる初等中等教育分野でも様々な改善案が検討されています。

本学園は、幼児教育から中等・高等教育までのサイクルの長い教育を実践しているため、それらの連携を通じて色々な試みができる強みを生かして行きます。

この20年の学園の歴史を振り返ると、これまで大きな変革が実行されて来ています。平成5年に開学した東京成徳大学は、現在、人文、応

用心理、子ども、経営の4学部を擁し、大学院は臨床心理学専攻の博士と修士の課程が北区王子に設置され、社会人も対象とした昼夜開講制となっております。

短期大学では、言語文化コミュニケーション科を本年3月に廃止し、幼児教育科のみとなりました。本学では在学の2年間で幼稚園教員免許と保育士の両方の資格をほとんどの学生が取得しています。

中学・高等学校では、商業科と家政科の職業科が廃止され普通科の男女共学となりました。そして、2つあるキャンパスを高校から入学する生徒の高等部と中学から入学する生徒の中高一貫部に分離しました。生徒達の課外活動や行事での交流、また、教員の人事交流はあるものの、それぞれのキャンパスで特色あるカリキュラムが展開されています。両方に共通した理念と取り組みは、「建学の精神」に基づく「自分を深める学習」と「文武両道の実践」です。

深谷高等学校でも、職業科の廃止と男女共学化が行なわれました。本年4月には新たに中学校が開校し、意欲あふれる新入生を迎えることができました。深谷市に私立中学は初めてであり、これからの成果が期待されています。

東京と埼玉の両幼稚園は、地域の方々の支援を得て少子化にもかかわらず順調に運営ができています。

創立100周年を目標として

本学園は、今年創立88年目を迎えたところです。そして、ここから100周年に向けての新たな飛躍を目指して取り組んでいく所存です。

これからの十余年、次のような課題を実現すべく、具体的な検討をそれぞれの部門で進めて行きたいと考えております。

①学園の一体化

『オール成徳』という意識のもとに、各学校が連携を持ち、学生、生徒、園児、同窓生、教職員がひとつの意識を共有することを目指します。これはシンボルマークの理念でもあります。

②各学校の目標設定

学園の一体化を進めるとともにそれぞれの学校が目標を持つて教育力を高めることは大切であり、学校ごとに100周年における姿を設定し、これに向けたロードマップの策定をします。

③校舎建替え、設備の充実

校舎耐震化への取り組みはほぼ完了しましたが、老朽化による建替えは、進行中の十条台以外にも深谷高校校舎、幼稚園園舎などがあり、

また、既存設備の更新やLED照明の導入などの省エネ対応を計画的に取り組むこととします。

④大学の充実(院・短大を含む)

学園にとつて最も大きな課題は、大学の充実です。学園の生徒・学生数のバランスから考えると中・高に比して大学のポリユームがまだ小さいことが目立ちます。但し、その規模については大きな総合大学を目指すのではなく、他大学との競争力を持ち、社会から評価される大学であるべきと考えており、いたづらに学部の新設を進めるのではなく、

既存学部の教育の質を高めて、併設校からも進学希望者が増加するような大学にしたいと考えています。十条台と八千代のキャンパスは学部の違いもあり多少異なった雰囲気を持っていますが、今年設置した入試・広報、就職支援、実習の3センターはキャンパスを横断する組織として一本化を目的に開設されました。目的通りの動きができるように、両キャンパスの事務局の標準化などを図り、学生の力強い支援につなげることにします。

また、大学院は、社会人の受入れも実施しており、その通学の利便性を考慮すると現在の王子から十条台キャンパスへ統合すべきかどうかの検討も必要になるかと思われる。

ます。

⑤中学・高校の充実(東京・深谷)

現状の規模の生徒募集を今後も維持できるかが課題です。少子化の波をいち早く受けており、大学よりも厳しい状況にあります。

近い将来大学進学にあたってアメリカのSATのような制度が導入されれば生徒の学力は点数化されて各学校の序列化が進むことが予想されます。学校として生徒の学力をいかに伸ばすかは重要課題です。

グローバル化をキーワードに「自分を深める学習」で実践しているようなアクティブラーニングを更に取り入れ「建学の精神」を核にした意欲的な若者を育てることを目指します。

⑥幼稚園の充実

国の方針として保育所の増設は急務で、そのような施策の一つが幼保一体の「子ども園」制度です。本学園の幼稚園では状況も流動的ですので、現在のところ幼稚園のみの施設として当面運営していく予定です。そして、カリキュラムを充実させ、最も重要な時期の幼児教育の実践と成果で社会の信頼に応えられるように取り組んで行きます。

以上を喫緊の課題として推進して百年を迎え、さらにこれからの東京成徳学園を築いて行く覚悟です。



「グローバル化社会と建学の精神」

東京成徳学園学長 木内 秀俊

グローバル化の時代

いま世界は政治・経済・社会・文化など様々な面でグローバル化への道を歩みつつあると考えます。わたくしなりに考えると、グローバル化とは人・物・情報の流通が地球規模でレベルアップすることによつて、民族・地域間の価値観・生活様式が少しずつ平準化して行く現象であると考えます。現在地球上を人々は高速で行きかい、物は遠方と大量に交換され、また様々な情報がラジオ・テレビ・インターネットなどで発信されており、感覚的に地球は大分狭くなつています。特に情報面では感情への訴求力が強い映像も伴つて発信され、特にインターネットの情報量は人間の通常の解析能力を超えるようなビッグデータの域に達しています。舞台上で例えるならば多くの役者が舞台上に現れて、それぞれが思い思いのセリフを喋っているという状態ではないでしょうか。観客である我々はその

セリフの興味を呼ぶ所を聞きとることに精一杯であり、全体像を理解することが困難であつたり無関心に陥る領域が広大に広がっているのかなと感じます。

インターネット社会の矛盾

インターネットで表されるIT技術の進歩は、ネットワークを通じて広く開放された情報を我々に提供しています。この「開放性」という特色が自由競争・民主主義などの価値観と共振する面があり、また切磋琢磨の中から新しい価値や物が生み出されることから一般に有用であるとの評価が与えられます。そして強い情報影響力が生み出されるインターネット社会では、生活上の安全・便利さに係わることに對しての価値観は次第に共通化して行くと思われれます。他方インターネットは開放性という特徴に付随して①悪意のあるサイバー攻撃によるシステムダウン ②情報が玉石混

淆であり必ずしも正しい情報のみではなく間違つた情報も流布すること ③ネットに乗つた情報は削除してもその前に拡散することにより事実上ずつと残ること など情報操作上の問題点があると考

建学の精神と現代社会

こうした現代社会において本学園の「建学の精神」はどのような意義を持つでしょうか。言うまでもなく本学園の「建学の精神」は「成徳」であり「有徳有為の人材の育成」にあります。私立学校にとつて「建学の精神」は学園の存立意義の根本的な柱であり、創立者が学園創立に際して熱意を籠めて定めたものです。ただ時代とともに社会環境が変化

設けておりますが、それは「開放性」の基本理念に反することであり、限界があります。正に矛盾に満ちた状況と言えます。

建学の精神を活かすために

この世の中は、聖人君子の集まりでもなく善人だけのユートピアでもありません。グローバル化はある意味では、猛獣が闊歩するジャングルの中に我々が放り出されているとも言えます。「徳」を身に付けた人もグローバル社会の中では、価値観の異なる人々や極端な場合は悪意ある人々と交流して行かなければなりません。「徳」の持つ「良き価値」や「善意」を保持するために、賢い（スマートな）バリアを持たなければなりません。そのバリアとは、「徳」に對しての強い信念を持つことと、エリートでなくともその人の存在を社会が何らか必要とする有為の人材であることだと思います。

これからの時代は、有徳であると同時に有為であることが求められています。私は、学園長として、「建学の精神」の在り方を、学園の中で追及し活かして行きたいと考えています。



「学長に就任しました」

東京成徳大学学長 海保 博之

一体感の醸成

もっぱら八千代キャンパスにおいて7年間、学科長、学部長、副学長として、同時に、福祉心理学科と健康・スポーツ心理学科の教員としても仕事をしてきました。そして、4月より、2代目学長・木内秀俊先生に代わり学長に就任しました。

なお、これ以前の私の経歴は、Wikipediaをご覧ください。誰が書いてくれたのかわかりませんが、驚くほど精密な紹介があります。(笑い)

学長に就任して3ヶ月余。十条台キャンパスと八千代キャンパスとに2日ずつ出勤しています。十条台キャンパスにいきますと、八千代キャンパスのことを、つい「うちでは」と口走ってしまいます。

2つのキャンパス、学部・学科が違い、設置からの年月も、さらに場所も違いますので当然なのですが、これが同じ大学なの？と思ってしまうほど、いろいろなところで大小とりまぜてそれぞれの独自性が発

揮されています。

その独自性を尊重しながらも、大学全体としてのゆるやかな一体感を作り出すのが一つの課題ではないかとぼんやりと考えているところです。

学長のリーダーシップ

これまで「教育学術新聞」[IDE]、「文部科学教育通信」の3つが管理職には定期的に配布されてきました。熟読してみると、日本の大学の内外の諸問題が取り上げられていて、とても参考になりました。学長就任が決まってから、このような新聞雑誌で、やたら目につくようになったキーワードが、大学ガバナンスとか学長リーダーシップです。要するに、大学の管理運営にあたり、学長はどのようにしてその指導的な役割を果たすべきかということです。世間ではごく当たり前のトップの役割が、大学という組織ではなかなか一筋縄ではないかない事情があるようです。

それはさておきーといえるところが大学の凄いところですが(笑い)ー、大学の日常は黙っていてもたんたんと着実に進行しています。十条台キャンパスでは、新校舎の建築のため、学長室のある建物の隣の旧校舎の取り壊しが始まりました。アツというまに風景が変わります。来年の9月頃には新校舎が建築され新校舎での教育研究が開始されます。

本学では、これまで理事長が学長を兼ねておりましたから、リーダーシップもガバナンスもほとんど問題なかったのですが、これからは、理事長と学長が分離されますので、そのことよって管理運営上どのような問題が発生するか、今のところ読めないところがあります。

幸いなことに、前「理事長・学長」が、学園長としてとどまっていただけですので、今のところあまり不安はありませんが、もしかすると新学長(私)のもと、不慣れが故スムーズにいかないところも出てくるかもしれません。ご寛恕いただきたいところです。

また、八千代キャンパスでは、今年の11月9日の20周年記念式典にむけて、応援歌、スローガン、キャラクターを決めるイベントが動いています。

こうした活発な動きがスムーズにいつている限り、あまり余計なリーダーシップなど邪魔かもしれません。

リーダーシップも時代によって変わるようです。カリスマ型から変革型、そして現在では、支援型になつていくようです。教職員、学生諸君のがんばりを支援できるリーダーになればと思います。ご支援のほど、よろしくお願います。



4月4日 入学式 学長告辞

東京成徳大学深谷中学校開校

平成25年3月29日埼玉県知事より設置が認可され、4月1日東京成徳大学深谷中学校が開校しました。平成23年3月の理事会で深谷中学校の設立が決定してから丸2年。この間に厚く御礼を申し上げます。

4月6日の第1回入学式では、地元深谷市長の小島進様、深谷市議会議員の小森秀夫様をはじめ多くの御来賓の方々の御臨席を賜る中で、20名の新入生を迎え入れることができました。新入生は担任の永山教諭の呼名に、元気な返事で応え、新入生代表・海野圭一朗さんの誓いの言葉も力強く堂々たるものでした。また、準備登校で練習した校歌も大きな声で斉唱でき、第1回入学式にふさわしい、明るく元気な入学式となりました。

しかし、勉強一筋で部活動もせず、級友との円滑なコミュニケーションもとれないような生徒では将来、社会で活躍していくことは難しいと思います。豊かな人間性を養い、育てるために、人としての生き方・在り方などを校長が週1時間直接指導しております。



埼玉県北部の大里郡市（熊谷・深谷・寄居）には、中高一貫校がありませんでした。そこで、安心・安全な環境で確かな学力を身につけてもらえる一貫校が欲しいという地域県民の皆様への要請・期待に応えるとともに、伸び代がある子どもたちにさらに伸びる教育を提供したいということから、深谷中学校の開校に踏み切った次第です。

グローバル化が進んでいる現在、変化に対応し国際社会で活躍するための実力

と人間性を兼ね備えた人材の育成が必要です。そのために本校では「実践的英語力の育成」を柱に、入学当初から高い意識の形成と生徒個々の特性に沿った指導で、志望校合格を目指します。

お互いが思いやりの精神を持って、生徒同士の間関係も自然の内に固い絆で結ばれます。6年かけて育んだ強い絆によって結ばれた友人関係の中で、より学園らしい学園での時間を過ごし、生徒が人生において最高の思い出を作れるように努めます。

子どもは小さく産んで、大きく育てると申します。本校がこれから大きく成長できるように教職員一同一丸となって尽力してまいります。今後とも東京成徳大学深谷中学校に皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

十条台キャンパス再整備計画

槌音が響き渡る東京北区の十条台キャンパスは、平成27年3月の完成を目指して建築工事が3月から始まりました。

工事期間中は学生のみならず、ご不便をお掛けしますが、よろしくお願ひ致します。



十条台キャンパス再整備計画工事

- ・ 平成24年4月～平成27年3月まで
 - ・ A棟（仮称）4階建 建築面積1,834㎡ 延床面積5,106㎡
 - ・ B棟（仮称）6階建 建築面積1,086㎡ 延床面積4,510㎡
 - ・ C棟（仮称）2階建 建築面積1,054㎡ 延床面積1,336㎡
- グラウンド（テニスコート、フットサルコート兼用）、広場
- ・ 設計 株式会社山下設計
 - ・ 施工 株式会社清水建設

十条台キャンパスは武蔵野台地の東端に位置し、戦前は陸軍東京第一造兵廠という軍需工場でした。戦後は米軍や一部を医薬品工場として使われていました。そして、昭和40年に東京成徳短期大学が開学し、平成16年には子ども学部の設置とともに大学の共用キャンパスにもなり、これまで26,952名の学生を送り出してきました。

短期大学開学に合わせて1号館が建築され、その後次々とキャンパスに建物が建築されました。その中でも新耐震基準（昭和56年）以前に建築された1号館から4号館は既に耐震補強を実施していますが、さらに耐震性を増すこと、より機能的で快適な施設とすること、子ども学部と経営学部が定員を増員したことによる学生数増加に合わせ施設を拡大することなどを目指して、平成23年6月から再整備の検討を開始し、設計

として工事の着工に至りました。

建築する3棟の機能はそれぞれ異なりますが、共通することは勉学の場として、クラブ・サークルの場として、仲間との語らいの場として、「学生に居心地の良いキャンパス」を提

供することを目的としており、なお且つ、防災への備えも重視しています。

A棟（仮称）の1階には講演や音楽、演劇の表現の場として50名収容のホールを配し、近接の保育実習室は託児室としても使えるように近くに幼児用トイレを設置するなどの配慮がされています。その他に造形室、音楽室、調理実習室があります。また、防災施設としての利用も考え、防災用具の倉庫も設けます。

B棟（仮称）は大教室やゼミ室とパソコン教室、クラブ・サークル室、教員研究室が作られ、1階には、進路や実習の機能的な支援を実現するために事務室を移設します。

C棟（仮称）は狭隘な敷地ながらも体育館としてバスケットボール公式コート一面の広さを確保し、ダンス室やシャワー完備のロッカールームを設置します。

平成26年7月に新校舎が建ち、9月から新校舎での生活が始まる予定です。引越後、1から4号館を解体しグラウンドや広場に整備します。そして、四季折々の花の咲く、楽しんで居心地の良いキャンパスを提

東京成徳大学 開学 20 周年記念行事

平成 5 年 4 月、千葉県八千代市に東京成徳大学が開学して、今年で 20 周年を迎えました。当初、人文学部のみでスタートした本学も、20 年を閲した現在では、応用心理学部・子ども学部・経営学部の 3 学部を加え、「共生とコミュニケーション」を基本理念に著実に発展して参りました。20 年の節目を機に、海保新学長を中心に、以下の記念行事を挙行します。

東京成徳大学開学 20 周年記念式典

日時 平成 25 年 11 月 9 日 17 時
場所 ホテルオークラ東京ベイ・クラウン・ボールルーム

記念講演

國分康孝先生（名誉教授・学術顧問）表彰式

東京成徳大学開学 20 周年記念応援歌・スローガン・キャラクター選考結果発表および入賞者表彰、応援歌演奏（なお、当日は、同じ会場にて、引き続き）東京成徳大学同窓会も開催されます。）

この、「開学 20 周年記念 応援歌・スローガン・キャラクター」は、大学の応援歌（皆を元気づけるとい

意味での応援歌）、スローガン（大学の特徴をあらわすキャッチ・コピー）、キャラクター（ゆるキャラ）ブームのなかで、大学にもぜひ個性的なキャラクターがほしいと思います）を、学生・卒業生・教員など関係者からひろく募集し、コンテスト形式で優秀な作・品を表彰するとともに、大学の広報活動に役立てようというものです。海保学長の肝煎りにより、人文・青柳教授、応用心理・阿部准教授が担当となり、企画ならびに募集を行いました。幸い、

7 月 7 日の締め切りまでに、各部門とも数多くの応募があり、現在、それぞれの上位入賞者 3 名（賞金 3 万円）、および最優秀賞（賞金 10 万円）を選考中です。

これらは、上記の開学 20 周年記念式典で発表されたのち、大学の公認のもと、PR 活動や HP 等で大いに使用されることとなります。どのような作品が選ばれるか、どうぞご期待ください。



東京成徳大学深谷高等学校 創立 50 周年記念事業

昭和 38 年に埼玉県深谷市に開校した深谷高校は本年創立 50 周年を迎えました。各種記念事業を執り行う予定であり、ここにご紹介します。

記念講演会

日時 平成 25 年 10 月 16 日 14 時 30 分
場所 深谷市民文化会館
講師 佐々木則夫氏
（サッカーなどでしこじやぱん日本女子代表監督）

演題 「夢と出会いが力に：くちムワークとコミュニケーション」

日時 平成 25 年 10 月 19 日 10 時 30 分
場所 東京成徳大学深谷高校
総合体育館（F・アリーナ）

記念式典

日時 平成 25 年 10 月 19 日 10 時 30 分
場所 東京成徳大学深谷高校
総合体育館（F・アリーナ）

記念祝賀会

日時 平成 25 年 10 月 19 日 13 時
場所 埼玉グランドホテル深谷

記念誌の発行

製本はソフトカバー A4 サイズの 70 ページ前後。現在、編集委員を中心に作業をしています。

学校新聞の発行

新聞部の生徒を中心に、編集作業を進めています。地元の人達にインタビューをしたり、卒業生の座談会を計画しています。

PTA 広報誌「青桐」の発行

PTA 広報委員会の保護者の方を中心に編集作業を進めています。歴代の PTA 会長に取材・座談会などを企画予定しています。

50 年の歩み

昭和 38 年 4 月 東京成徳学園深谷高等学校普通科開校
木内四郎兵衛校長就任
昭和 43 年 4 月 商業家庭科新設
昭和 54 年 4 月 東京成徳短期大学附属深谷高校に改称

昭和 63 年 4 月 福留金光校長就任
平成 6 年 4 月 村松廣行校長就任
平成 9 年 4 月 東京成徳大学深谷高等学校に改称
平成 10 年 3 月 商業家庭科廃止
平成 13 年 5 月 大澤健校長就任
平成 14 年 8 月 総合体育館（F・アリーナ）竣工

平成 21 年 4 月 大谷幸男校長就任
平成 25 年 4 月 東京成徳大学深谷中学校開校

平成 21 年 4 月 大谷幸男校長就任
平成 25 年 4 月 東京成徳大学深谷中学校開校

役員・評議員の改選 学園人事 平成25年2月1-7日

平成25年5月に開催された学園理事会・評議員会において、役員・評議員の任期満了に伴う改選が行われ、左表の通り決定しました。
役員では、新任として、木内秀樹副理事長が理事長に、中里明彦理事

の後任に前田雅英氏が理事に、黒田定男元理事が監事に選任されました。木内秀俊前理事長は理事を重任され、新たに学園長並びに学事顧問に就任されました。

理事・監事・評議員

役職	氏名	現職
理事長・評議員	○木内秀樹	短期大学長、中学・高等学校長、幼稚園長
理事・評議員	木内秀俊	学園長
理事・評議員	海保博之	大学長
理事・評議員	大谷幸男	深谷中学・高等学校長
理事・評議員	渡部賢	大学事務局長、短期大学事務局長
理事・評議員	竹内利行	群馬大学副学長
理事・評議員	○前田雅英	首都大学東京法科大学院教授
理事・評議員	青柳晴久	赤城印刷株式会社代表取締役
監事	大澤健	前深谷高等学校長
監事	黒崎康夫	株式会社黒崎インターナショナル代表取締役
監事	○黒田定男	前大学八千代事務局長
評議員	安見克夫	短期大学幼児教育科長
評議員	松崎博	大学事務局次長
評議員	永井聖二	大学子ども学部長
評議員	石山賢	法人事務局長
評議員	○星野薫	第二幼稚園長
評議員	染谷一子	中学・高等学校同窓会長
評議員	遠藤洋子	短期大学同窓会長
評議員	○藪崎精克	学園後援会長 株式会社藪崎工務店代表取締役
評議員	岡田康司	大学経営学部長
評議員	新井邦二郎	大学院心理学研究科長
評議員	津島泰雄	歯科医師

○・・・新任者、選任区分・年齢順

理事長

木内秀樹（きうちひでき）

昭和24年（1949年）生

【経歴】

慶応義塾大学法学部法律学科卒業
会社法「取締役会の権限強化について」

三菱地所株式会社勤務を経て昭和60年に東京成徳学園に中高教諭として奉職。平成25年5月31日理事長就任。
学園内では中学校校長（平成2年）、高校校長（平成11年）、幼稚園長（平成18年）、短期大学学長（平成25年）を兼務しています。

【活動】

中央教育審議会専門委員、（独）国立青少年教育振興機構運営諮問委員、東京都私立学校審議会・助成審議委員、（公）東京都私学財団理事、日本私立中学高等学校連合会常任理事、東京私立中学高等学校協会常任理事

【賞罰】

東京都知事教育功労者表彰

【趣味】

スポーツをすること（小学生時代は水泳、中高の時は柔道、大学は弓道、社会人になるとラクビー）、美術鑑賞（東京国立博物館が大好き）

理事 前田雅英

東京大学法学部卒業。法学部助手の後、東京都立大学（現首都大学東京）法学部に奉職。現在首都大学東京法科大学院教授をされています。

監事 黒田定男

平成13年に大学八千代事務局長として着任。同時に理事・評議員となる。平成24年に事務局長退任後は学園参与となる。この度、参与と評議員を退いた後、改めて監事に就任しました。

東京成徳大学名誉教授の授与

平成25年3月に退職された市村操一前健康・スポーツ心理学科長、前図書館長に対し、東京成徳大学名誉教授の称号を授与いたしました。

國分康孝学術顧問

瑞宝小綬章授与される

國分康孝学術顧問が春の叙勲で瑞宝小綬章を授与されました。

部 門		事 業 内 容
高等教育部門	大 学 通 共	<ul style="list-style-type: none"> ・定員未達学科の定員確保に向けた対策実施 ・大学の知名度向上のための諸施策の推進 ・科学研究費補助金、企業助成等の外部資金の獲得 ・公開講座等の開催・充実 ・教員免許更新講習の実施 ・20周年事業の実施
	人 文 部 応 用 心 理 学 部 大 学 院	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様化する学生の就業力向上を目指すカリキュラム」の実施 ・自治体等と連携した諸事業への学生ボランティアの派遣 ・国内外交流校との交流協定の締結及び交流プログラムの実施 ・人文学部各学科及び福祉心理学科の学生募集（定員確保）に向けた対策実施 ・教育の質を高めるFD・SD・自己点検（PDCA）の推進 ・地方自治体審議会等への人材派遣
	子 ども 部 学 部	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員養成課程設置、入学定員増に伴う教育課程等の実施 ・24-25年度自己評価に基づく教育課程の改善 ・「教育支援人材育成事業」の遂行
	経 営 部 学 部	<ul style="list-style-type: none"> ・入学定員増に向けた教育課程等の整備 ・キャリア教育の充実 ・学修意欲向上のための「懸賞論文コンテスト」「ビジネスアイデアコンテスト」の実施 ・授業アンケートを実施し、授業の質を向上
	短 大 期 学	<ul style="list-style-type: none"> ・新評価基準に基づく自己点検・評価の実施 ・幼児教育科のカリキュラムの見直しと諸資格取得に向けての整備 ・現職幼稚園教諭の一種免許状取得課程の設置 ・公開講座（保育研修会等）・研究発表会等の開催 ・近隣地域・協力園等との連携と交流
中 高 等 学 校 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力定着・伸長とそれによる進学実績の向上 ・「自分深め学習」の推進 ・英語教育への取組み研究（ネイティブ教員採用） ・運動施設の確保整備（南グラウンド借用、テニスコート・部室合宿所） ・設備の更新（空調機など） ・防災への取組み実施（備品整備、避難訓練、研修など） 	
深 谷 中 学 校 高 等 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識と規律ある生活態度の確立 ・個に応じた進路指導を進路指導部長とコース主任の綿密な連携で実践 ・放課後講習で更なる実力養成をはかる ・生徒による「授業評価」の満足度を上げ、ネットに公開できるように努める ・「教師の熱意」や「面倒見の良さ」を数値で示し、教育活動をアピールする ・互見授業や研究授業・研究協議を通して、指導力アップを図る ・同窓会・PTA、地域住民一体となった教育事業を展開する。 ・奨学生・特待生（含むスポーツ特待生）基準の構造的見直し ・計画した具体的施策の実行と評価・改善（PDCA サイクル） ・オープンスタイル・学校説明会の参加者増を目指した効果的な広報活動の展開 ・深谷中学校開校に伴う諸規程の整備 	
幼 稚 園	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象講演会等の実施 ・カリキュラムの見直し改善 ・教員研修の実施 ・防災への取組み実施（備品整備、避難訓練、研修など） ・課外教室での施設活用 	
第 二 幼 稚 園	<ul style="list-style-type: none"> ・園内・園外研修の充実 ・カリキュラムの見直し改善 ・英会話活動の定着 ・近隣小学校との連携 ・未就園児親子教室の充実 	
法 人 本 部	<ul style="list-style-type: none"> ・収益構造の改善の徹底、各部門への浸透（人件費見直し、予算執行管理の強化、遊休資産の活用・処分等） ・事務処理体制の見直し、効率化 ・広報の見直し（広報誌・HPの充実、パブリシティ体制の構築） ・記念行事（大学20周年、深谷高校50周年、深谷中学校開校等）の支援、十条台校舎建替えフォロー ・中期事業計画のフォロー並びに第二次中期事業計画策定 	

平成24年度事業の概要

学園は創立87年となる平成24年度を終了し、1,781名の卒業生を送り出しました。また、平成25年4月には合計1,876名の入学者・入園者を迎え、平成24年度の学生・生徒・園児数（平成25年5月1日現在）は、5,690名となりました。

高等教育部門において実施した主要な施策は、以下の通りです。

- ①子ども学部にて、平成24年度から小学校教職課程を設置し、入学定員を50名増員して140名としました。
- ②平成25年度から、経営学部入学定員を40名増員して140名とし、応用心理学部健康・スポーツ心理学科入学定員を10名増員して60名とすることとし、教育内容の拡充や学生募集等の準備を進めました。
- ③募集状況が不調であった人文学部観光文化学科の募集を、平成26年度より停止することとし、募集を停止していた短期大学言語文化・コミュニケーション科は、平成24年度の在学生の卒業をもって廃止しました。
- ④大学・短期大学における運営組織の一体化、共通化を目指して、平成25年1月に、入試・広報セン

ター、就職支援センター、実習センターを設置しました。また、平成25年度から東京成徳大学の本部を十条台キャンパスとすることとし、平成24年度に文部科学省に届け出ました。

⑤十条台キャンパスにおける校舎の建替え事業については、平成24年度に基本設計並びに施工業者の選定を進め、平成27年3月の完成を目標として、平成25年4月に着工することとしました。

中等教育部門では、私学の中高一貫教育に対する社会の期待にこたえて、平成25年度に東京成徳大学深谷中学校を開校することとし、平成24年度には、埼玉県に設置認可申請を行い認可されました。また、平成24年度には、東京の中高一貫校との経験の共有化が行われるなど学園一体の支援で開校への準備を進めるとともに、中学校棟（中学専用）を建設し、平成25年2月14日に竣工しました。

なお、詳しくは東京成徳学園ホームページに掲載していますので、<http://www.tokyoseitoku.ac.jp/report/index.html>

学校法人東京成徳学園 平成24年度決算

資金収支計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで) (単位:千円)

収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	4,219,447
手数料収入	119,411
寄付金収入	82,496
補助金収入	1,493,775
資産運用収入	14,465
資産売却収入	356,614
事業収入	11,362
雑収入	238,650
借入金等収入	2,200
前受金収入	947,142
その他の収入	814,424
資金収入調整勘定	△ 1,215,279
前年度繰越支払資金	2,730,588
収入の部合計	9,815,295
支出の部	
科 目	金 額
人件費支出	3,876,434
教育研究経費支出	1,034,917
管理経費支出	332,585
借入金等利息支出	2,500
借入金等返済支出	56,750
施設関係支出	795,991
設備関係支出	156,517
資産運用支出	152
その他の支出	261,436
資金支出調整勘定	△ 264,012
次年度繰越支払資金	3,562,025
支出の部合計	9,815,295

消費収支計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで) (単位:千円)

消費収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金	4,219,447
手数料	119,411
寄付金	85,570
補助金	1,493,775
資産運用収入	13,964
資産売却差額	111,421
事業収入	11,362
雑収入	238,650
帰属収入合計	6,293,600
基本金組入額合計	△ 829,397
消費収入の部合計	5,464,203
消費支出の部	
科 目	金 額
人件費	3,876,162
教育研究経費	1,735,914
管理経費	405,103
借入金等利息	2,500
資産処分差額	202
徴収不能引当繰入額	350
徴収不能額	13,803
消費支出の部合計	6,034,034
当年度消費支出超過額	569,831
前年度繰越消費支出超過額	8,772,065
基本金取崩額	2,196
翌年度繰越消費支出超過額	9,339,700

貸借対照表

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで) (単位:千円)

資産の部	
科 目	金 額
固定資産	43,303,056
有形固定資産	39,926,994
その他の固定資産	3,376,062
流動資産	3,971,649
資産の部合計	47,274,705
負債の部	
科 目	金 額
固定負債	575,774
流動負債	1,463,284
負債の部合計	2,039,058
基本金の部	
科 目	金 額
基本金	54,575,346
消費収支差額の部	
科 目	金 額
翌年度繰越消費支出超過額	9,339,700
消費収支差額の部合計	△ 9,339,700
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	47,274,705

ひと 『活躍する卒業生』

大学院心理学研究科

臨床心理学専攻

(平成22年3月修了)

緑が丘クリニックカウンセラー

臨床心理士 荒井 信行さん

Q. 本学を志望された動機、学生の時に印象に残っていることは

私は北海道の道立北見柏陽高校在学中に読んだ國分康孝先生のカウンセリングに関する著書を読んで感動し、「ただ先生から学びたい」と、将来のことを全く考えずに臨床心理学を受験しました。東京の東中野に住み都会の生活に息苦しさを感じていたので、往復4時間の通学時間は大変でしたが八千代キャンパスの緑や施設でリフレッシュできました。

「人の悩みを解決したい」「人の心を知りたい」と臨床心理学を興味深く学んでいくうちに、人の心を理解していくためには、より専門的な知識が必要と感じ、もう少し勉強したいという思いが強くなり大学院に進みました。

大学院は「心の専門家」になるというのが前提でしたので、とても厳

しい2年間でした。修士論文は「ほめ方と叱り方の効果的研究」というテーマでした。臨床心理の先生から「カウンセリングではほめたり、叱ったりはしない」「君のやっているテーマは臨床学研究と言えるのかな」とキック言われたのが印象に残っています。

本学は日本臨床心理士資格認定協会より第一種指定大学院として認定を受け、高い合格率を誇っています。それだけの力をつけていただいたので、院を修了後、臨床心理士の資格を取得し、自立して専門家への道を歩みはじめました。

Q. お仕事について

都内の小学校が2校、千葉県内の私立高等学校等のスクールカウンセラーや当クリニックでメンタルサポートをしています。学校は始業時間が早いので朝7時前に自宅を出かねばなりません。個別相談だけでなく、児童・教員・保護者と一緒の話し合うこともあります。定時制高校もあるので、夜遅くなつて警備員の退勤と同じになったりします。県や市の行政からも要請を受けて仕事をしています。

毎日出勤先が異なりますので、頭を切り替えるのが大変です。今年5月に結婚した妻も同業ですので、私より帰宅時間が遅い時は食事の準備もします。

この仕事は室内で相手の話を集中して聞くので、土・日は頭と体の切り替え、仕事と趣味のバランスをとるために限られた時間の中で草野球をしたりゴルフをしたり健康管理に留意しています。

また、現在も大学院に毎月顔を出し井上先生の催眠療法勉強会に参加していますが、この分野で将来論文をまとめたいと思っています。

Q. 後輩へのメッセージ

今やっておいた方がよいと思ったこと、勉強だけでなく、趣味・遊び・バイトなど・とにかく一生懸命にやっておけば、その後に繋がっていくことが多い。悔いなく、楽しく生活していくって欲しい。

○指導教員 根津先生から

荒井さんは、インタビューの中にもある通り、「ほめる、しかる」をほめらる、しかられる側の視点からみるという、臨床心理学の研究として

は、ユニークなテーマの研究を行っていました。先行研究が少ない分、苦労も多かったようです。

修了後もさまざまな分野で活躍されており、今では後輩にあたる現役の院生さんの指導において、我々がお世話になっているような次第です。今後のご活躍を祈念します。

東京成徳大学大学院

心理学研究科臨床心理学専攻

修士課程（臨床心理士受験資格
第1種指定校）／博士課程 昼

夜開講制

「心の問題」を探求し解決できる
専門家の育成を目指しています。

オープンキャンパス

7/27 8/24 10/12

11/16 12/14 14時から

03-3927-4116

<http://www.tsu.ac.jp/gra/>

心理・教育相談センター

広く地域に開かれており、年齢や性別に関係なくさまざまな心理的問題に関する相談をお受けします。必要に応じて医療機関等をご紹介する場合があります。

03-3927-4117

<http://www.tsu.ac.jp/gra/center/>

東京都北区王子3-23-2

王子駅より徒歩10分

東京成徳学園の歩み②
―終戦の復興から短期大学の開学まで―

第二代理事長 菅澤重義先生



幼稚園文化祭

苦難の復興

戦争終結から3週間後に授業が再開されたとはいえ、理科室等の焼失があり学校の施設も荒廃している状況でした。深刻な食糧難の中、授業と共に農園作業が行われ生徒に野菜を配給したり、食糧事情のため2日間臨時休校しなければならなかったり、全生徒にノート3冊の配給や甘藷が配給されたという記録があります。その苦難の中で菅澤重雄先生は学校復興の指揮を執られました。そして、思わしくない学校経営を物心両面で支え続けたのが、当時財団法人東京成徳高等女学校の理事であったご子息の重義先生（のちの2代目理事長）でした。当時「毎月山林の立木を伐採し人件費を工面した」という話しも残っています。

昭和21年4月に重義先生の女婿である木内四郎兵衛先生が副校長として着任されました。木内副校長は高齢の菅澤重雄校長先生を支え、学校の復興に邁進したのでした。そして、昭和23年からは全面的に学校の責任者として運営されることになりました。

なりました。

昭和22年に教育基本法・学校教育法が公布されました。学制改革により昭和22年に東京成徳中学校、翌年には東京成徳高等学校が誕生し、財団法人東京成徳高等女学校を財団法人東京成徳学園と改称しました。

国際的視野に立つて、ものを考える人間の育成を目指す教育のもとに、木内副校長は校歌の改作を決意されました。

作詞を堀内敬三先生、作曲を下総皖一先生にお願いし、品のある格調高い現在の校歌が誕生しました

全校の士気を高める明るい話題があり、昭和25年の全日本高校水上選手権大会で小椋トミ子は100m背泳決勝で18年ぶりに日本記録を更新し、水泳部は一躍世間の注目を集めるようになりました。11月26日の学園創立記念日には創立25周年記念式が盛大に挙行されています。昭和27年には高校に商業科が復活し普通、家庭、商業科をもつ高校となりました。

5つの教育目標

木内副校長は創立者重雄先生と起居を共にされ、その日常から創立の経緯や「建学の精神」について教えられていたので、学園の教育目標

を次の5つに集約して表現されました。

- ① おおらかな徳操
- ② 高い知性
- ③ 健全なる身体
- ④ 勤労の精神
- ⑤ 実行の勇氣

即ち本学園の教育を通じて養われた「②高い知性、③健全な身体、④勤労の精神」が「⑤実行の勇氣」によって発揮され、目標の第一である「①おおらかな徳操」を実現させることとなります。その思いは、シンボルマークのブルーの5本の柱に象徴されており今日にも弛まらずに継承されています。

幼稚園の開園と校地の拡張

地域の要望が強く、これから日本を背負っていくべき子どもたちに早く教育的環境を整え、計画的な教育を施さねばならないという考えに基き附属幼稚園を昭和28年に開園しました。次の3つを教育のねらいとし、①おおらかな情操を涵養すること。②正しい躰の実施③早期開発教育の実施を企図、木内副校長が自ら園長に就任されました。幼稚園は、学園教職員の研究の場として、また家庭科生徒の保育実習の場としての役割も担ったのです。



短期大学開学当初の校舎（1号館）



昭和40年頃の深谷高校 周辺は市営住宅のみで畑が広がっていた。



タイプライティングの授業（短期大学）



ティーチング・マシーンを利用した学習（深谷高校）

学園は、校地の拡張と在来への借用地を有地化して昭和30年までに基礎を固め、今日の北区豊島と王子の校地が定められました。

この将来を見据えた木内副校長の決断、先行投資が学園発展の大きな礎となったのです。

短期大学の開学まで

昭和32年1月、初代理事長菅澤重雄先生が逝去され、菅澤重義先生が第2代理事長に、木内四郎兵衛先生が東京成徳中・高校の校長に就任されました。

1人当りのGNPが昭和30年に戦前の水準を超え、昭和31年に発表された経済白書の結びの言葉「もはや戦後ではない」は流行語となりました。この好景気の時代は「神武景気」と呼ばれ、岩戸景気、いざなぎ景気と続き日本経済は驚異的な復興の途上でした。戦後のベビーブームで、その子どもたちが進学してくる時期に備え学園は教育の質を高めるため新しい教育機器の開発に努め、また、校舎の鉄筋化を進めました。昭和33年には集団反応装置、昭和37年に個別学習機器として東京成徳式ティーチングマシン、昭和40年には成徳方式の語学演習装置などを開発して成果をあげ、全国私学研究協会の会場

として授業を公開し、教育界に多大な貢献をしています。

戦後生まれの新しい世代が高校進学時期となる社会的要請にこたえるため昭和38年4月東京成徳学園深谷高校（東京成徳大学深谷高校）が埼玉県深谷市に開校されました。かねてより学園が開発してきた教育機器学習プログラムを駆使した教育が進められました。

そして、昭和40年に北区十条台に東京成徳短期大学が開学しました。翌年には文科を国文専攻と英文専攻に分離し、幼児教育科を増設しました。次代の国民形成に大きな役割を占める女性に対して、その文化生活の充実・発展のため教養を高め、また、高いレベルの実務能力を身につけることを目標としていました。初代学長には東京教育大学名誉教授、元文学部長熊澤龍先生が就任され、木内四郎兵衛校長が学監に就任されました。これにより学園は中等教育の分野から高等教育の分野まで幅広く理想とする総合学園を目指して前進したのです。

（つづく）

前回の訂正

【誤】大正15年（1927年）正 大正15年（1926年）
 【誤】昭和2年（1928年）正 昭和2年（1927年）

国際交流

中高一貫部

ニュージーランド(NZ) 学期留学



NZ 学期留学は平成25年度で11回目を迎えます。希望者対象ですが、ここ数年は学年の3割ほどの生徒が参加しており、平成25年度3年生は、およそ半数の生徒が参加を希望しています。

本校のプログラムでは、中学3年生の3学期を利用して、NZの1学期にあたる1月末から4月初めまで、各現地校の生徒としての学籍を得て留学生活を送ります。生徒同士が集まりすぎないように、1校につき3名以内と制限を設けています。NZは留学生の受け入れが非常に盛んで、どの学校にも、インターナショナル専門の教員がおり、留学生のサポートにあたってくれます。授業選択のアドバイスから始まり、ホストファミリーのことや、学校生活に関するすべてのアドバイザー

となつてくれます。また、本校のプログラムでは、NZ在住の日本人もアドバイザーとして生徒のサポートにあたり、誰もが直面する言葉や文化の壁を乗り越える手助けをしてくれます。重要なのは、生徒たちがそういった人たちのサポートを経て、自分の力で克服する体験を重ねていくことです。

留学とは単なる語学研修ではなく、その地で生活するということです。異なる文化の中で、どのようにコミュニケーションをとり、どのようにお互いを理解していくのか、そのプロセスに大きな価値があります。他者に支えられていることを感謝し、主体的に物事に取り組みことは、15歳の生徒たちに自立という種を植え付けてくれるはずで、そのような願いを込めて、留学する生徒、送り出す保護者の皆さんには、「日本と切り離す覚悟」をお願いしています。この3ヶ月が一人一人の生徒にとって大きな成長をもたらす、帰国後の生活を通して東京成徳に通う仲間たちがその体験を共有できるようにすることを期待して、彼らの留学生活に声援を送りたいと思います。

2012年度3年生(51名参加)の学期留学スケジュール

東京成徳大学中学校 2013年 ニュージーランド学期留学スケジュール

<2013年1月11日(金)~4月8日(月)>

1/14~1/25:Dynaspeak Englishに就学

1/28~4/5: オークランド郊外、近郊の現地校

1月11日(金)	ニュージーランドへ出発
1月12日(土)	オークランド着。オリエンテーション後、各ホームステイ先へ(翌日曜日は、終日ホストファミリーと過ごします)

※ 現地到着後、日本人アドバイザーによるオリエンテーション(現地校生活等について)があります。



1月14日(月)~1月25日(金)	現地校編入準備期間 英語コース(2週間)受講 Dynaspeak Englishにて
-------------------	---

※ 留学学校にて英語のスキルアップを目指します。

※ 1月19日(土): 終日野外学習

(ブッシュウォーキングです。カウリの木を見る等ニュージーランドの独特の動植物、生態系を観察します)

※ 現地校準備コース終了後、1月26日(土)もしくは1月27日(日)に現地校のホームステイ先へ移動します。

1月28日(月)~4月5日(金)	現地中学校の2013年・1学期へ編入(約10週間)
------------------	---------------------------

※ 1月28日より東京成徳大学中学校が提携する現地校に編入し、一学期間の授業を履修します。

※ 期間中に2回、現地校に分散編入中の生徒が一同に会し、各個人ごとのテーマのレポートを提出し、近況を報告しあう「ニュージーランド通信」を実施。日本にその写真とレポートをお送りします。

※ 修了証と成績簿は留学終了時ないし日本帰国後に現地校より送られてまいります。



4月7日(日)	オークランド市内のホテルに各現地校より合流。宿泊
---------	--------------------------



4月8日(月)	早朝にオークランドを出発。空路成田へ成田着
---------	-----------------------



社会交流

大学 八千代市教育委員会との包括協定 書締結



5月27日大学（人文学部・応用心理学部）と八千代市教育委員会は従来の協力関係をさらに強固に継続して築きあげるため相互協力協定書を締結いたしました。

本学は平成16年よりスタートした「おにいさん・おねえさん子ども電話相談室」、平成20年度よりスタートした「ドリームティチャー」事業や、大学施設の開放など様々な教育の場面において市と協力関係

を進めてきました。

当日は八千代市教育委員会加賀谷孝教育長、小林教育次長、佐藤指導課長が来訪され、本学は海保博之学長、松崎博事務局長、応用心理学部飯田順子准教授などが出席し、八千代市地域教育の発展と本学学生が実際の教育現場で児童・生徒に接することによる資質・能力向上のために相互協力し、今後も良好的な関係を継続していくための協定を締結しました。

- 協定の要旨
1. 教育委員会が管轄する教育現場（以下学校という。）に本学が学生を派遣する事業。
 2. 市が管轄する中学校に本学の教育実習生を受け入れる。
 3. 本学の知的資源を学校などに還元する。
 4. 本学の施設設備を教育委員会の利用に供する。

○具体的な事業については3つの覚書を交わしました。

- ①ドリームティチャー事業
八千代市内にある小中学校に本学の学生がボランティアとして出向き、先生方のお手伝いをしたり、支援が必要な児童・生徒に個別に関

わったりします。学生は最初に教育

委員会主催のオリエンテーションを受講し、その後半年間あるいは1年間特定の学校に行きます。本学の学生は毎年15名前後参加させてい

- ②教育実習
本学の学生が教育職員免許法の規定に基づいた「教育実習」を八千代市が管轄する中学校で受け入れていただく。
- ③中学生ソフトテニス大会
今迄も本学のナイター照明付、6面のテニスコートを利用して八千代市中学校のソフトテニス大会が開催の支援を行ってきました。本年は千葉県総合体育大会八千代市予選会場として3日間施設等を無償貸与致します。

公開講座

会場…八千代市総合生涯学習プラザ
時間…14時～16時
受講料…無料

10月5日 『西鶴諸国はなし』巻1

―3―大晦日はあはぬ算用」
山下准教授（日本伝統文化）

12日 異文化としての英語学習

―英語は学びやすい言語か―
今仲教授（国際言語文化）

11月2日 認知症について知ろう
渡辺助教（福祉心理）

9日 歴史にみる朝鮮半島のことばと文化―「韓国語史」のようなもの―
大井教授（観光文化）

12月14日 脳を活性化させるとは？～認知機能の改善とその取り組み～
田中助教（臨床心理）

子ども学部公開講座

会場…十条台キャンパス

11月30日 時間…13時～17時

受講料…無料
テーマ…親子への支援を考える

※詳細については大学ホームページを御覧ください。

進路 進学・就職

東京成徳大学高校

国公立大学 (準大学含む)	54 名
京都大学 東京外語大学 お茶の水女子大学 東京学芸大学 東京農工大学 筑波大学 千葉大学 埼玉大学 宇都宮大学 茨城大学 愛媛大学 首都大学東京 横浜市立大学 防衛大学校 など	
難関私立大学	175 名
早稲田大学 慶應義塾大学 上智大学 東京理科大学 国際基督教大学 青山学院大学 法政大学 中央大学 明治大学 立教大学 など	
その他私立大学	941 件
東京成徳大学	23 名
東京成徳短期大学	5 名
その他短期大学	20 名

平成 24 年度の卒業生 552 名のうち、進学者は 468 名、約 85% でした。その内訳は、大学 405 名、短大 20 名、専門学校 43 名です。昨年度に比べ短大進学者がほぼ半減しました。また、捲土重来を期す浪人が 75 名 14% となり、比率的には昨年度の倍近くにになりました。一方、大学合格件数は今年々増加し、今年は 100 件となりました。これは、一般入試受験者が在籍の半数以上いること、生徒の併願校数が全国平均 (約 6 校) を大きく上回る約 10 校となっていることなどが原因です。

〈国公立大学について〉

今年度の入試は、センター試験の国語と数学で平均点が大幅に下がるといふ劇的な事態から始まりました。このような年は、国公立を断念する受験生が多発するのですが、本校の生徒は逆に、昨年度より多くの生徒が国公立を受験しました。その結果、54 名という過去最高の合格者数となりました。京都大学や愛媛大学には、初めての医学部合格者が出ましたし、首都圏を中心として全国の国公立大学に本校の生徒が進学していきました。最後まで諦めないという姿勢の勝利だと考えられます。

〈私立大学について〉

センター試験の難化を受け、私大入試でも弱気の出願をする受験生が増えた年となりました。その中で、早慶上理は昨年度の倍の 44 名、MARCH は 20 名増の 131 名、文系難関 (学習院・成蹊・成城・武蔵・明治学院・國學院・獨協) は 20 名増の 82 名、日東駒専は 40 名増の 203 名と大健闘しました。また、東邦大学など 2 名が医学部に合格しました。昨今の理系人気とセンターシヨックの影響からか、理系難関 (北里・東邦・芝浦工業・東京農業・東京都市) は 42 名と昨年度を下回りましたが、大

東京成徳大学深谷高校

国公立大学 (準大学含む)	11 名
千葉大学 東京学芸大学 福島大学 鳥取大学 高崎経済大学 前橋工科大学 兵庫県立大学	
私立大学	420 名
東京理科大学 学習院大学 青山学院大学 法政大学 中央大学 明治大学 立教大学 北里大学 明治薬科大学 など	
東京成徳立大学	7 名
東京成徳短期大学	4 名
その他短期大学	20 名

学全体としては 100 件ほどの合格数が出ましたので、生徒たちは本当によく健闘したと思います。今回の大健闘を手本として、後に続く下級生にも頑張ってもらいたいと思います。

平成 24 年度卒業生は 334 名。その進路状況は、大学 224 名、短大 24 名、専門学校 67 名、就職 5 名、その他は 14 名でした。大学進学者は全体の 67%、およそ 7 割の生徒が四年制大学へ進学しました。5 年前は 50% をそここだったことを考えると、大学進学者の増加を改めて感じます。大学進学率を押し上げた一つの要因

は、必ずしも大学進学を目標にしていない総合進学コースで 32%、保育進学コースで 50% の生徒が大学進学したことが考えられます。これは昨今の四年制大学への進学志向を反映したともいえますが、担任の先生や教科担当の先生方の積極的な指導も大きな要因であったと思います。

受験形態における特徴としては、AO 入試と指定校推薦入試の合格者が多かったことがあげられます。指定校推薦が増加しているのは昨今の安全志向の現れかと思いますが、一方で目標を定め、少しでも受験の機会を多くしたいとの思いから公募推薦で受験できる成績がありながら AO 入試にチャレンジする生徒も多く見られました。

難関大学への進学状況ですが、千葉大、東京学芸大などの国公立大学への合格者が 4 年ぶりに二桁に届きました。現役に限ると 7 名、進路指導部としてはもう少し出せると踏んでいただけに少々残念でした。

これらの反省や検討事項を活かしつつ、更に難関大学への合格を目指し、また一人でも多くの生徒の希望進路を実現させられるよう、「団体戦」で取り組みたいと思います。

大学 十条台キャンパス進路支援状況

昨年暮れの政権交代以降、アベノミクスと言われる一連の経済政策によって株価が上昇するなど日本経済も若干明るさを取り戻しているようにも見えます。しかしながら新卒の採用マーケットにおいては相変わらず厳しい競争が繰り広げられています。そのような中、経営学部にとって初めての就活生となった1期生は、先輩に就活の進め方を聞くことも、参考にすることも出来ない厳しい状況でしたが、そんな中でも、学生は意欲高く就活に臨み大企業へ就職した学生もいました。1期生での経験をぜひ2期生の指導に繋げ、決定率を向上させていきたいと考えます。

子ども学部は例年通り高い進路決定率となりました。多数を占める幼稚園や保育所はもとより、一般企業を希望する学生も一定割合となり最後まで諦めないで就活を継続した結果、下記のような実績となりました(就職先は「子ども業界」に留まりません)。



学内企業合同セミナー

八千代キャンパス進路支援状況

人文学部、応用心理学部の平成25年3月卒業生は以下の通りの進路決定率となりました。特に注目された健康・スポーツ心理学科の1期生は、女子が卒業生の全員が進路決定するという快挙を達成しました。男子を含めても卒業生の86%が進路を決めとても高い決定率となっています。

現在活動中の平成26年3月卒の現4年生には3年次の1月から5回学内企業セミナーを開催し、80社以上を紹介する等の支援をしました。6月時点での内定率は30%と見られます。学内推薦企業の

東光電気工事(株)やりそなグループを含め、上場企業等大手の内定者が目立っています。キャリア支援担当としては、希望の進路の実現のために引き続き木目細かい支援を続けていきたいと思えます。

短期大学
短期大学の学生は進路意識も明確であり、「社会で使える能力」を育成していることから、引き続き高い進路決定率となりました。
〔就職支援センター〕

進路決定率と主な就職先

学部	学科	進路決定率	主な就職先	
大学	人文学部	日本伝統文化学科	93.70% 【和装】(株)いつ和、木村実業(株) 【運輸】JR東日本(株)【製造】サン・プラント工業(株) 【卸・小売】(株)ヨドバシカメラ、(株)スズキ自販京業	
	国際言語文化学科	100.00%	【旅行】大清水ホテルズ(株)、(株)ツーリストエキスパート 【卸】AGC硝子建材(株)、(株)チップワンストップ 【金融】日本貸付保証(株)	
	応用心理学部	福祉心理学科	89.50%	【医療・福祉】(福)武蔵野会等障がい者施設、(医)仁愛会 【小売】(株)アイドル、(株)アドバンス 【サービス】(株)アクトコール
	臨床心理学科	95.60%	【公務員】千葉県警察本部 【医療】東邦鎌谷病院、(株)サンリツ 【建設】鹿島建設(株) 【進学】東京成徳大学院、筑波大学院、東京女子大学院	
	健康・スポーツ心理学科	95.70%	【公務員】千葉県消防局、陸上自衛隊 【サービス】(株)目黒雅叙園(公)千葉県体育協会、住友不動産エスフォルタ 【進学】上越教育大学院	
子ども学部	子ども学科	94.70%	幼稚園、保育所、施設等就職関係の進路希望者決定率：94.9% うち公立：計30名(幼稚園2名、保育所28名) 一般企業の主な就職先 (株)スタジオアリス、(株)ユナイテッドアローズ、(株)三鈴(株)ナルミヤ・インターナショナル、(株)AOKI 他	
経営学部	経営学科	82.90%	【金融・保険】りそなグループ、第一生命保険(株) 【百貨店・スーパー】イオンリテール(株)、(株)三越伊勢丹【卸・小売】ナイス(株)、(株)サタケ、(株)ゴルフ・ドゥ、他 【運輸・郵便】日本郵便(株) 【情報通信】(株)イーエムネット、ピクオス(株)、他 【サービス】(株)ロッテリア、(株)スタジオアリス、(株)白青舎(株)ムジャキフーズ、他 【製造】三国コカ・コーラボトリング(株)、コイズミ照明(株)、他 【公務】警視庁、茨城県境町役場 【進学】中央大学専門職大学院国際会計研究科	
大学 短期	幼児教育科	98.90%	●幼稚園、保育所等、認定子ども園・複合施設、施設 就職関係の進路希望者決定率：98.8%	



「就任の挨拶」

東京成徳短期大学学長

木内 秀樹

4月より木内秀俊前学長の後任として短期大学長に就任いたしました。前学長同様よろしくお願いいたします。

「幼児教育」については、「子育て支援」の立場から保育園の待機児童解消などの社会的要請を踏まえ国でも大幅な改革が検討されており、しかし、制度上の改革については、政権交代などによりその考え方も揺れ動いており、幼保一元化の方向性はまだ十分に固まっていなように思われます。

こうした先行きの不透明感や少子化の進展にもかかわらず、幼稚園教諭・保育士に対する需要は今後も高く、教育現場では人材が常に不足している状況です。本学短大では、2年間で幼稚園教諭と保育士の両方の資格を取得できるので、履修すべき単位が多いという大変さはあるのですが、学生にとってはやりがいのある2年間ではないかと思えます。

幼児期の教育は頭脳の発達や人格形成にとって大切なものであり、



「はじめまつり」

東京成徳短期大学附属第二幼稚園長

星野 薫

東京成徳短期大学附属第二幼稚園長を拝命いたしました星野薫です。前園長の後を引き継ぎ、「げんきであかるくのびのびと」をモットーに運営していこうと思えます。

自己紹介を含め私事ですが少し記します。私の父は新潟県長岡市で教員をし、校長で退職して現在90歳です。私も高校までは長岡で育ち大学からこちらに出てきました。大宮市で教員となり3年前にさいたま市立大宮南小学校の校長として定年退職しました。

私の小さい頃の教員の家の中は大変忙しく父親とゆつくり遊んだ記憶がありません。しかし、年1回の夏休みの海水浴や川に釣りに行ったことを覚えています。また、当時（昭和30年代）は各家庭に風呂があるわけではありません、教員を家に連れてきては一緒に風呂に入り、たわしでのごしごとすられたことを今でもよく覚えています。「教員は大変だけれど楽しそうだな。」と思って私も教員になりました。妻も教員でしたので、それこそ

子どもは妻の両親に預け、夜遅く迎えに行く毎日でした。そんな中あまり手をかけなかった二男が教員になつてくれました。今、初任2年目を迎えています。つまり、父から数えて三代続く教員一家となりました。このことに父も大変喜び、今でも教員としての心構えを孫に伝えています。

このように私は、子どもは親の姿を見て育っていくことを実感しています。私は父の生き方に感銘を受け、息子も私たちの後を継いで教員として育っています。私が言うのもおこがましいのですが、親が一生懸命に人として誠実に生きていくことが最大の教育になると思います。

本園の保護者は毎日送り迎えをし、お弁当を持たせ、各種行事に積極的に参加し、家族挙げての子育てを一生懸命に行っています。

必ずこの子どもたちは親の姿を見て立派に育つてくれると思っています。

また、「十条駅再開発計画」もようやく動き出しており、近い将来、駅舎の改築や駅前の再開発が行われる予定です。それに伴い十条踏切も撤去されますので十条駅周辺もオシャレな街の雰囲気生まれかわりそうです。

また、「十条駅再開発計画」もようやく動き出しており、近い将来、駅舎の改築や駅前の再開発が行われる予定です。それに伴い十条踏切も撤去されますので十条駅周辺もオシャレな街の雰囲気生まれかわりそうです。

大学 八十年代キャンパス

大活躍!

オープンキャンパスサポーター学生



今や多くの大学でオープンキャンパスを盛り上げているのは、学生サポーターです。本学でも学生サポーターは

オープンキャンパスの最重要戦力の一つです。

毎年4月になると、サポーターを募集します。以前は、応募者30人前後でしたが、最近では60名を超えるほどになっています。応募の動機を聞くと、自身が受験生として本学のオープンキャンパスに参加したとき、学生サポーターがとても親切にしてくれたことが印象に残ったから、という答えが少なくありませんでした。学生の魅力は大学の魅力、ということでしょう。

そこで、彼ら・彼女らの魅力をさらに引き出すために、数年前からマナー講習のプロ講師を招いて事前

にトレーニングを行うことにしました。その成果もあって、来場者からの評判は上々です。学生たちにとつても、自身のコミュニケーションスキルが向上していくことは大きな喜びのようです。

サポーター活動は、言うまでもなく学生の皆さんに大学の広報活動を手伝ってもらうものですが、同時に、学生の皆さんにとつては大きな成長の場にもなっていると言えます。今年も学生サポーターの活躍によって、来場者や志願者がさらに増えて欲しいと思っています。

短期大学

新科長就任

4月から学科が幼児教育科のみとなった短期大学は、新学長のもと安見克夫教授が新科長に就任し、新体制が発足しました。安見科長は平成16年に本学に着任され、乳幼児期の言語の発達に関する研究と実践における保育者の保育法について言葉の側面から研究をしています。学外では幼稚園長もされています。また、薬学士の学位を持つ異色の科長です。

安見科長監修の本が出版

『マンガでわかる園児子育て相談

室 性格、クセ、行動、園生活、友だち付き合いの悩みに答えます!』安見克夫、渡邊暢子 誠文堂新光社

子育て奮闘中の方が笑顔で子どもと向き合えるような「育児書」です。Q&A形式とマンガでわかりやすく解説され、気軽に手にとれるようになっていきます。

寺田清美教授「幼保連携型認定こども園保育専門委員」に就任

「幼保連携型認定こども園保育要領」の策定について検討を進めるため、6月から、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会認定こども園教育専門部会委員と寺田教授が就任している厚生労働省社会保障審議会児童部会認定こども園保育専門委員会の合同検討会議が開催されました。今後とも認定こども園保育要領策定に向けて委員として参加いたします。

第三者評価へむけて

大学・短期大学は学校教育法施行令に基づき7年以内に文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価（認証評価）を受けることになっていきます。短期大学では平成20年に短期大学基準協会より適格と認定されました。そして、平成26年に認証評価（第三者評価）を受けるべく準備を整えています。

中高一貫部

歌舞伎鑑賞教室 4年生（高1年）

6月11日、4時間目終了後、かなりタイトなスケジュールでしたが、生徒たちは、しっかりと時間を意識した行動をして、昼食を済ませて、国立劇場に集合しました。入場5分前には、ほぼ全員集合し時間とおりに入場することができました。



今回の歌舞伎鑑賞は、芸術鑑賞の一環として、もとは中学のミュージカル鑑賞

に続き、日本の古典芸能に触れることと、5年生修学旅行先の中国の京都を見る前段階の指導として位置付けられたものでした。修学旅行先が中国ではなくなり、後者の目的はなくなりましたが、生徒たちは、今回の鑑賞で、「歌舞伎とは何か」を十分理解し、職業としての歌舞伎の面白さや古典芸能の意義を深く感じたとされています。

前半部分の「歌舞伎のみかた」については、19歳の役者の中村隼人さ

ん、15歳の役者の中村虎之介さんが、歌舞伎の言葉や表現方法、音楽、舞台装置などを丁寧でテンポ良い掛け合いをしながら、説明してくれて、生徒達もよく理解し、大変盛況でした。自分達と同年代の役者さんが、堂々とした舞台活動をして、わかりやすく歌舞伎の解説をしてくれました。後半の『紅葉狩り』は歌舞伎十八番中の名作で、場面が『戸隠』の話で生徒には、親しみのある話でした。平維茂役を演じた中村錦之助さんや更科姫兼鬼女役を演じた中村扇雀さんの立居振舞や見事な踊りや太刀さばきは、大変見ごたえがあり、歌舞伎のわからなかった生徒達にも、伝統芸能の凄みを感じさせてくれたと思います。

「生駒屋!!」「萬屋!!」などさまざまな屋号で、観客が呼びかけ、観客と一体となって意気を感じてすごい演技をする歌舞伎役者を見て、きつと心に感ずるものがあつたと私は思います。

4年生では、最初で最後の校外学習でしたが、生徒たちの生き生き生きとした姿がたくさん見られ、大変有意義な時間を過ごせました。東京成徳中高一貫教育の感性を鍛える行事としては、なかなか質が高く多くの知識を学べるので、4年生の歌

舞伎鑑賞教室がこれからも続けられることを強く願っています。

高等部

天文部 本格始動

本格的に天文部の活動が始まりました。歴史のある部活動で、今年卒業した3年生には天文部所属の生徒もいましたが、昨年度までの活動場所は中高一貫部だけであり、高等部で活動していた生徒がいたのは少し昔のことになってしまいました。とは言え、星空を眺める楽しさを知ってほしい、長く続いている天文部を途絶えさせてはいけなさと、今年度の始めに募集をかけ、高等部の高校1年生5名が無事入部し、現在は週2〜3日で活動しています。

「天文部」というと夜まで学校に残って星の観察を行う印象を持つかもしれませんが、高等部にはプラネタリウムという施設があります。都内の学校では滅多に見られない、非常にユニークなものです。文化祭ではこのプラネタリウムで上映することを目標に日々活動しており、先日、東京スカイツリータウン内の最先端プラネタリウム「天空」での校外活動を行い、文化祭でのイメージを膨らませてきました。

夏には中高一貫部の天文部との合同合宿も企画しており、ペルセウス座流星群の観測や写真撮影を試みる予定です。さらに今年の末には肉眼でも見ることでできる大彗星になるのでは、という世界中の期待が集まる「アイソン彗星」が地球に接近します。これらの観測や撮影もできるよう、望遠鏡を含めた機器の操作や整備をはじめ、惑星や月の観察を通して腕をみがいでいこうと張り切っています。

まだ本格稼働して半年も経たない部活動ですが、文化祭での上映を、今後の活動を、ぜひ楽しみにして下さい。



深谷中学

長距離ハイキング

5月2日、寄居のハイキングコースにおいて、約20kmの長距離ハイキングが実施されました。

学校行事において、高校生ですらいまだかつて歩いたことのない20kmという距離に、実は迷いもありましたが・・・いろいろな可能性に対する手立てを用意し、当日を迎えました。

当日、先生方の心配はどこ吹く風。天気にも恵まれ、生徒たちは最後まで明るく元気に、なんと当初の予定から2時間も早いペースで、20人全員がゴールまで歩き通しました。先生方も生徒も、多くのことを学んだ長距離ハイキングでした。



深谷高校

新入生校外学習

(1班4月18日、20日 2班20日、22日)

この校外学習は入学行事の一つとして、学校がとても重視している学習です。今回の目的に、「規律を学ぶこと」、「先生やクラスメートとの親睦を図ること」、「長野県木島平の大自然に触れること」、そして、



「家族のありがたみを知ること」の4つをあげました。当日は2班に分かれ、それぞれのコースに合った行程・

日程を用意しました。1班の進学選抜・特進・特進選抜コースは、勉強中心。特に初日は午後3時に到着してから、夕食を挟み、夜11時半まで机に向かって勉強です。2班は進学コースは勉強はもちろんのこと、善光寺へお参りも行程に入れました。初日は、両班共に校長の講話(勉強への取り組み方や望む成徳生の姿、論語を使つての人生訓など)で幕を開け、生徒達は校長のわかり易い話と熱意に、熱心に耳を傾けていました。2日目は、木島平村の文化財

や観光スポットを班ごとに訪ねるオーリエンテーションの予定でした。しかし、2班では、前日から降り出した雪の影響で、コースが短縮されるといふハプニングもありましたが、みんな大自然を満喫できたようです。そして、その日の夕食は楽しみにしていたカレー作り。ここでも校長自らカレー作りに取り組み、美味しいカレーを頂くことができました。また、夕食後には、毎年好評を博している伝統芸能の鬼島太鼓の鑑賞です。生徒と同年代の人達の見事な演奏は、今年も私たちの心に大きな感動を呼びました。そして最終日は、そば打ち体験。この3日間は、生徒たちの成長を肌で感じる事ができた、とても実りの多い3日間でした。

幼稚園

土曜参観日(年長組)

6月8日の年長の土曜参観では食育の一環としておとうさん、おかあさんと一緒にサンドイッチを作りました。クラスで前々からどんなサンドイッチにしようか皆で相談したり、材料を買いに行ったり、味付けを考えたり、野菜や肉、卵等の話をして、素材がどこでどうやって

育っているか又野菜にはどんなものがあるのか、それぞれにどんな栄養があるか等々沢山の事を学びました。おとうさん、おかあさんと協力して作ったサンドイッチの味は格別で笑顔いっぱいでした。これからも食の大切さを知りバランスの良い食事をするために、もっと食育に興味を持てるようにしていきたいと思えます。



日曜参観日(年少・年中組)

6月9日年少・年中組の日曜参観をしました。園舎に隣接する人工芝の広い中高グラウンドで青空の下、おとうさん、おかあさんと一緒に体操をしたり手話の歌を歌ったり、又ゲームをしたりと思いきり遊びました。その後各教室に戻り、じっくり製作をしました。年少は動くおも

ちゃ作り、年中は小麦粉粘土製作をそれぞれ楽しみました。個性あふれる作品が出来、幼稚園で家族との楽しい思い出がまた一つ増えました。



第一幼稚園

「ちびっこスイミング」



本園では、体力の向上と水に慣れ



与野公園へ遠足
 年少・年中組を対象に5月24日絶好の晴天に恵まれて近くの「与野公園」で遠足を行いました。満開のバラ園でクラスごとの写真を撮ったり、親子で園内にいる先生からシールを集めるゲームをしたり、木陰でお弁当を食べたりと楽しいひと時を過ごしました。写真は、親子でフォークダンスをしているところです。

親しむ目的で、年中・年長が年間6回水泳教室を行っています。近隣のスイミングスクールに行き、水なれのコース、ビート板コース、クロールコースなどの習熟度に応じたグループで練習しています。写真は水なれコースで、コーチの指導に目を輝かしながら水に潜る練習をしているところです。

クラブ活動

中学・高校

ラクロス部

関東中高女子ラクロス春季リーグ戦……………3位
 全国中高女子ラクロス選手権大会……………ベスト8

バスケットボール部（女子）

東京都中学校バスケットボール春季大会……………優勝

陸上部

南関東高校総体 男子やり投げ 62m19 ……………優勝

卓球部

中学男子北区卓球大会……………団体戦優勝

フットサル同好会

東京都ユース（U-18）フットサルリーグ……………優勝
 北澤 CUP 高校生フットサル2013……………優勝

深谷高校

パワーリフティング部

全日本高等学校パワーリフティング選手権大会 埼玉予選会
 74kg級……………1位、3位
 54kg級……………2位
 53kg級……………3位
 男子団体戦……………3位

陸上部

県北陸上競技大会 やり投げ……………女子3位



閉会後は大学院教授・心理・教育センター長で臨床心理士の田村節子博士が「親と子が幸せになるXとYの法則」と題して講演。「親と子が幸せになるXの法則」親と子の距離の取り方、自立の意味などを軽妙に解説。「親と子の幸せが遠くなるYの法則」ではいつまでも親が子どもに関わり続けている弊害、圧力の中身について講演されました。会員自身の子育てやお孫さんの教育に重ね、身近な問題として、昼食後の近況報告の時もこの話題で持ちきりとなりました。

平成25年度学園後援会総会開催
 6月22日に学園後援会総会が開かれました。遠藤洋子副会長の開会挨拶、藪崎精克会長挨拶に続き、木内秀樹新理事長が学園の近況・将来構想を述べられました。議事は滞りなく進み、新任幹事として伊藤邦夫さん、坂田道治さん、会計に立石ひとみさんが選任されました。

オープンキャンパス・学校説明会のご案内

東京成徳大学 大学院
7/27 ㊦ 8/24 ㊦ 10/12 ㊦ 11/16 ㊦ 12/14 ㊦
十条台キャンパス [子ども学部・経営学部・短期大学]
7/28 ㊦ 8/31 ㊦ 9/29 ㊦ 11/17 ㊦
八千代キャンパス [人文学部・応用心理学部]
7/21 ㊦ 8/11 ㊦ 25 ㊦ 9/8 ㊦
東京成徳大学高等学校
予約必要…8/24 ㊦ 9/15 ㊦ 10/4 ㊦ 11 ㊦ 13 ㊦ 18 ㊦ 25 ㊦ 12/23 ㊦
予約不要…10/13 ㊦ 11/4 ㊦ 17 ㊦ 12/7 ㊦
東京成徳大学中学校
9/16 ㊦ 10/13 ㊦ 29 ㊦ 11/17 ㊦ 12/15 ㊦ 1/7 ㊦ 18 ㊦
東京成徳大学深谷高等学校
オープンスクール (要予約) …7/21 ㊦ 8/4 ㊦
学校説明会…9/23 ㊦ 10/14 ㊦ 11/10 ㊦ 12/8 ㊦
東京成徳大学深谷中学校
予約必要…7/26 ㊦ 9/13 ㊦
予約不要…10/14 ㊦ 11/10 ㊦ 12/8 ㊦
オープンスクール…8/3 ㊦
東京成徳短期大学附属幼稚園
予約必要…9/21 ㊦ 10/19 ㊦
東京成徳短期大学附属第二幼稚園
9/18 ㊦



オープンキャンパス・学校説明会の詳細は各校のホームページをご覧ください

学校法人 **東京成徳学園** <http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra	電話 03-3927-4116
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp PC http://www.tsu-mobile.com 携帯	
子ども学部 経営学部	十条台キャンパス入学課	電話 03-3908-4566 (直通)
人文学部 応用心理学部	八千代キャンパス入試広報課	電話 047-488-1000 (直通)
東京成徳短期大学	http://www.tsc.ac.jp PC http://www.tsc-mobile.jp 携帯	
	十条台キャンパス入学課	電話 03-3908-4566 (直通)
東京成徳大学中学・高等学校		
中高一貫部	http://www.tokyoseitoku.jp/js	電話 03-3911-2786
高等部	http://www.tokyoseitoku.jp/hs	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	http://tsfj.jp	電話 048-573-1784
高等学校	http://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳短期大学附属第二幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind	電話 048-854-2151
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室 東京成徳広報 第34号 平成25年7月発行